

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471001592	事業の開始年月日	平成18年2月1日
		指定年月日	平成18年2月1日
法人名	医療法人社団 ピーエムエー		
事業所名	グループホーム ソフィアとつか		
所在地	(245-0065) 横浜市戸塚区東俣野町959-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年11月5日	評価結果 市町村受理日	令和7年4月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

近隣にある同法人のクリニックや他の医療機関との連携を図り、入居者およびご家族からも安心して過ごして頂ける様に支援を行っています。コロナ禍により外出機会が減ってしまったので、ホームの敷地外に出る機会を増やしているところです。散歩やコンビニでの嗜好品の購入やご自身の日用品の買い物と一緒に行っていただいています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル 3階		
訪問調査日	令和7年1月20日	評価機関 評価決定日	令和7年3月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JRまたは地下鉄ブルーライン「戸塚」駅から約20分「諏訪神社前」で下車し、徒歩約10分の富士山に見える高台田園住宅地にあります。同一法人のクリニックや介護老人保健施設が近隣にあり、医療連携が良く取れています。

＜優れている点＞
「入居者のペースで地域に根ざした笑顔のホーム」の実現の為に、10項目の具体的な行動指針を掲げて支援に努めています。ケアプラン作成・変更の際は、家族との連携を密に取り、変更の場合は前回との内容の違いを丁寧に説明しています。業務については法人からの指示だけでなく、職員からもアンケートを取り改善に繋がっています。各種研修・委員会の資料作成など、職員は主体性を発揮して活があります。管理者は人間関係やコミュニケーション・人事の公平性を保つ為に、様々な対策や気配りをしています。運営推進会議録・外部評価結果・運営規定など、事業所にとって重要な資料を玄関前の棚に閲覧しやすく提示しています。

＜工夫点＞
2人体制の為散歩は困難ですが、事業所用品の買物の場合に職員が可能な限り入居者を同行しています。最大の楽しみである食事イベントを大切にしています。毎月の寿司出前に際しては、事前に家族に承認を得ると共に、好みやアレルギーなどのアンケートをとり、結果をブログで発信し共有しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームソフィアとつか
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入口等に理念を掲示している。	職員は業務優先ではなく、「入居者のペースを重んじ強制しない」を支援における大切なキーワードにしています。法人の「前向きで積極的」という理念に基き、管理者は事業所の運営に職員の積極的な参加を促しています。笑顔の生活の場作りに努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	天候にもよるが、散歩や近所に買い物、地域のお祭りなどに参加している。	目標達成計画に「地域とのつき合いの再開と再構築」を掲げて町内会の夏祭りに参加するなど、コロナ禍で途絶えた地域との交流再開に努めています。事業所オーナーから使用許可を受けている井戸水の活用で、災害時の近隣支援なども考えています。	現在進行中の地域との連携拡大が今後期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の中の話がそれに当たると思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	管理者が中心となり意見交換を行っている。参加したことはない。	原宿地域ケアプラザ職員や近隣住民、家族の参加があります。事業所の現状報告に対して散歩のルートや訪問医のことなど、活発な質問や意見交換があります。従来は事業所からの参加は管理者だけでしたが、昨年秋から職員も出席するようになり、運営推進会議の理解を勧めています。	町内会々長や民生委員の出席で、運営推進会議の更なる充実が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が行っていると思う。	報告や相談の事案内容により、横浜市や戸塚区双方との連携があります。横浜市グループホーム連絡会と神奈川県高齢者認知症グループホーム協議会に加入しています。戸塚区の感染症対策などの研修に参加しています。昨年11月に横浜市の運営指導を受けています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修も行われているため、身体拘束をしないケアは実施出来ている。	年間予定表に従い身体拘束適正化委員会を開催しています。テキストは委員自らが各種の資料を参考にして作成しています。入居者の安全確保とスピーチロックの問題では、禁止言葉の是非よりも、その言い方で受け取り方が違ってくるとし、声のトーンなど適切な声かけの方法を研究しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	利用者のボディチェックや定期的に研修も行われ、虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。	虐待防止委員会も年間計画に従って開催しています。研修は委員が編集した動画視聴が中心です。虐待は職員の体調の影響もあるため、専門業者に依頼し毎年ストレスチェックを行っています。希望休取得やシフト変更など、職員の体調維持に配慮しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が行っていると思う。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱の設置をしている。電話・メールで管理者が行っている。	運営推進会議に家族が出席し、活発な意見交換をしています。ケアプラン見直しの際には、家族の意見をしっかり聞いています。家族からの外出希望には、職員が必需品購入時に利用者を同行したりと工夫しています。月々の様子は主としてメールで伝えています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロアーミーティングは出来ていない。	業務の無駄はないか、もっと効率化が出来ないかなど、運営に関する意見を職員にアンケートで問いかけています。現在その集計・分析を行い、採用出来る提案については具体化を検討しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己評価をして管理者との個人面談がある。	人事考課において、法人の評価と自己評価の突き合わせの場には、1人ではなく複数の判断で公平を保つため、管理者は副管理者と2人で出席しています。管理者は職場の人間関係維持の為に、苦情には徹底して両方の話を聞くように心掛けています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人員不足でなかなか行うことが厳しいと思う。	実務者研修については、法人から研修費用や研修日の出勤扱いなどの支援があります。社内研修にはパート社員も全員参加しています。新人教育はオリエンテーションの後、昼番・遅番・夜勤をそれぞれ1ヶ月間、OJTで研修を行っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	行っていない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	私は行っていないが、管理者は行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	私はしていないが管理者が話を聴いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	私はしていないが管理者が行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常的な話をするようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族が希望することが本人が現在でもできることであるなら行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	無理のない範囲での面会を家族に依頼している。	入居前から得意だったぬり絵を今も続けている人や、習字が得意な人に風呂の順番表作成を依頼しています。昔懐かしい歌がテレビで流れると一緒に歌う人もいます。入居後にサンプルにハマった人もいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	なるべく全員に話しかけるようにしている。（同じ話題を）		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	個々の職員が病院に面会に行くなどがある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	していると思うが、足りないこともあると思う。	墓参りをしたいと言う人の本音が家族に会いたいという場合があります。帰宅願望など寂しさからの思いが多かったりします。誕生日祝いや食レクリエーションなどに力を入れることにより、前向きで積極的な気持ちになってもらえるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族から話を聞くなど行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	声かけをして、出来ることをしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネを中心にカンファレンスを実施し意見交換及び情報などの交換を行っている。	長期・短期の目標を設定し、普段からの気づきや課題を反映した介護計画を作成しています。カンファレンスに家族が参加し、意見などを反映した介護計画を作成しています。参加できない家族は、メールなどでやりとりした後、作成した計画の変更内容を報告しています。医師など医療関係者の意見も反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ルーティンな記録にならないよう入居者さんの言動や行動を観察し記録に残すように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	取り組むように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	安全で豊かな楽しめる暮らしを提供・支援したいが地域資源は把握できていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	クリニックとの連携をはかり適切な医療を受けられるよう支援している。	希望のかかりつけ医の受診は可能です。現在は利用者全員が法人クリニックの内科医の訪問診療を受診しています。歯科医は必要時に往診での受診です。眼科などの専門医の受診は、家族や職員が同行しています。看護師が週1回来所し健康観察をして状態の変化に気づけるようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	管理者・副管理者を中心に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・副管理者を中心に行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	管理者・副管理者を中心に行っている。	契約時に「重度化についての指針」を提示し、医師が将来にわたり共同生活を送ることが困難であるとの助言や、終末期医療を優先する確たる診断が行われた場合は、協力医療機関のクリニックに委ねられることを説明しています。この数年の看取り実績はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全ての職員が実践力を見につけているとは正直思えない。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	管理者・副管理者を中心に行っている。	年2回、夜間の火災を想定した避難訓練を実施し、事業所オーナーに参加を呼びかけています。備蓄リストを作成し、水、雑炊、紙おむつ、軍手などを備えています。業務継続計画を作成しています。職員が戸塚区主催の感染症対策研修に参加し、学びを深めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対応している。	利用者一人ひとりに応じた言葉かけをしています。入浴時の見守りは、利用者の視野に入らないようにするなど羞恥心に配慮した支援をしています。家族などにSNSへの投稿許可の可否をとり要望に応じて顔が分かるように、後ろ姿で、など、個人情報に配慮して写真を取り扱っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人の希望に沿った生活が送れるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望を聞きつつ支援していきたい。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に準備は出来ていない。今後は可能かぎり一緒に行っていきたい。	ご飯と汁物は職員が作り、主菜などは専門業者の調理済み食品を温めて提供しています。土曜日はパン食です。利用者が食器洗いなどを積極的に行っています。利用者の要望に応えた好みの寿司ネタを選んで注文する行事食を月1回実施しています。本人のネタの嗜好を家族からも把握し、取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体重管理も含め、個別での摂取量・食事形態を工夫し日々の状況も考慮し支援出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	定期的に歯科医とも連携し個々の身体機能に応じて出来る範囲で本人に行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日頃から行動を把握し本人の尊厳も守りながら可能な限りの個別支援をしている。	定時誘導や利用者の申し出、落ち着いた様子などを捉えて誘導し、立位を保てる人のトイレでの排泄に繋げています。視力の低下がみられる人などは、転倒リスクや居室からトイレまでの距離を考慮して夜間にポータブルトイレを使用し、排泄の失敗で自尊心が損なわれることのないよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	当法人のクリニックとも連携し食事形態の工夫や水分量の調整、歩行訓練も実施している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	不公平な思いをしないようローテーションで入浴順番を変えている。	長湯や湯温にこだわる利用者に配慮しつつ、入浴でリラックスできるよう支援しています。入浴を拒む理由を把握し「洋服が汚れているので着替えませんか」などと自然な流れを意識して促し、入浴につなげています。拒否が数日続いた時は、足浴や清拭をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調も考慮しながら、日中にも臥床していただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期的に当法人のクリニックと連携し日々の状況を相談・報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりに合わせて個別ケアでのレクリエーションの実施や年間行事にて施設全体でも楽しめる時間を提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の意思・希望を尊重しながら不定期ではあるが、可能な限り散歩、買い物等の支援をしている。	数回に分けて地元の神社や公園へ、初詣や花見に出かけています。「散歩したい、買い物をしたい」などの思いを把握し、外気浴や自動販売機での飲み物の購入、利用者と買物に行くなど、可能な限り気分転換できるよう支援しています。家族と外食に出かける人もいます。	「散歩や買物に利用者と出かける」という事業所目標の具体的な取り組みを目指しています。短時間でも手伝ってくれる有償ボランティアなどを活用して外出支援を行えることが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本にご家族様管理だが買い物等でお金の理解を示している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望であれば、ご家族様にも協力いただき出来る範囲で支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日々清潔を保ち、共用箇所には場所が分かるよう、名称を示している。また、季節を感じられるようなタペストリー、飾りを作成掲示している。	コロナ禍以降も継続してエアコンの風向きや換気に配慮しています。利用者が居室を間違えないよう、表札のほかに扉の引き手付近に大きな文字で苗字を表示しています。テーブルの配置などに配慮し車いすの動線を確保しています。雛人形などを飾ったり、庭の草花や畑の作物などで季節を感じられるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	TV・ソファの設置、配置の工夫、各々が落ち着いて過ごせるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個室の為、各々が生活しやすいよう家具等の用意・配置の工夫等行っている。	事業所では押し入れとエアコンを備えています。退去した人が事業所に寄贈したベッド、防災カーテン、照明器具などを希望し使用する人もいます。利用者が、テレビ、鏡、椅子、整理ダンス、仏壇などを持ち込み、それぞれ個性のある居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーを活かし、窮屈に感じない、安心して過ごしていけるような空間作りをしている。		

事業所名	グループホームソフィアとつか
ユニット名	かわせみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念は作って在り、職員が見えるように掲示してある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ以前は、散歩などを行い地域の一員として生活を行っていた。コロナにより状況は一変したので、少しずつ地域での活動に参加を進めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	特に行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。報告や話し合いを行い参加者からの意見について可能な範囲で応えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	必要時に連絡を取り、助言などをいただいているが、日頃からと言われるとなかなか難しい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等、条件を満たさない限り実施せず、委員会を3ヶ月ごとに実施。必要か不必要かの検討を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止についても委員会を設け、スタッフ間でも虐待がない様に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	不十分だと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関する説明等については利用者・ご家族の不安を取り除くよう不明点等がある場合、その場で解決できない物についても出来る限り早急に対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議においてご家族等の意見交換等の実施。その際近隣住民の方の参加など外部者への理解等を表している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の業務について、職員にアンケートを行っています。効率的・無駄な業務の洗い出しをしています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	時と場合によるがたいがいやる気を削がれることが多い。複数人で同様のことを訴えても環境の改善はなかった。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修等を受ける機会は増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流に関してはほぼない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	顧客に対して初期のヒヤリング、スタッフ間の情報共有はまめに行っていると思われる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの利用の段階や計画書の作成時において家族の気持ちや考えを確認している。面会時や状態の変化がある時に情報を発信して関係性の構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	上記同様に適宜家族に情報を発信して、家族の考えや選択肢を提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一方的な関係性にならないように注意している。課題としては、対等な関係性を目指している中で、気やすすぎることもあること。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	話合いの中や・計画書において無理をしない範囲の中で面会に来ていただくように依頼し、家族の関係性を継続していける様にしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関係性を継続していけるように依頼している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクやイベントごとの際に入居者同士が関わり合えるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	主体的には行っていないが、個々の職員が病院まで面会に行くなどをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自らの意志を言える方には、本人の気持ちを確認し、難しい方には以前の生活をもとに検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居する際にそれぞれの生活歴などを収集したものを職員に閲覧できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々支援をしていき中で、本人の状態の確認や変化の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスを実施の際に家族の同席の確認や不参加の場合に家族の考え意向を確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録や申し送りなどで行い、必要時には計画書の変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスだけに捉われないように意識はしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	充分とは思っていないが、地域資源の把握、関係性の構築を進めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診の際は家族と相談し、同意・納得の下で適切な医療が行えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の看護師の訪問の際に相談や報告等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主には当法人のクリニックの医師・看護師になるが情報の交換を行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族との話し合いや関係機関との情報の共有は行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訓練は実施しているが、定期的にと言う程の頻度では出来ていない。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域との協力体制が築けていないと思っている。なので、積極的に地域の集まりに参加して関係性の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自分の声かけにより怒る方がいる。声掛けの仕方に工夫が必要だと考える。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	働きかけという程ではないが、時々において本人が自己決定できるようにはしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の決まりや都合を優先してしまうこともあるが、基本的には、本人に確認、希望を聞き行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	化粧をすることが習慣だった方へメイクの介助を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	やっていただく頻度にかたよりが出ない様に声かけし、片付けなどを手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	嫌いなものを食べやすく刻んだりして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	必要に応じて仕上げ磨きを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿意の「ある」「ない」に関わらず定時での声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個別に飲水の声かけと食事以外の飲水の声かけを行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者の同意を得て入浴介助を行っている。入浴を楽しんでいただける様、音楽をかけたり話しかけたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	出来るだけの支援はしている様に思う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	確認後薬庫から持ってきて別のスタッフが声に出して確認。入居者の前でも名前を言って服薬を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者が手持無沙汰の時がある。その時に相手をする人がいない。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来ていないと思う。希望に沿えていない。スタッフの人員が足りない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来ていないが、散歩に行ったときに本人の好きなものを購入する等自らが選択できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からの希望がないと行っていない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレ、水回りや床の掃除は汚れた時に適宜行い、リビングの壁には季節に合わせた装飾をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにもソファを置いたり、廊下の奥にソファ・イス・テーブルのセットを配置してくつろげる空間を作っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安全に配慮しつつ、本人と相談して家具等配置している。本人が移動など希望すれば移動も手伝っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人の自立度に合わせた声かけ、見守り等をしている。		

2024年度

事業所名 ソフィアとつか
作成日： 7 年 3 月 28 日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	現在進行中の地域との連携拡大が今後期待されます。	施設の職員と地域住民が交流を持ち顔見知りの関係性を築いていく。	地域の催し、自治会の催しに参加をして地域の住民と接する機会を作る。	12ヶ月
2	3	町内会々長や民生委員の出席で、運営推進会議の更なる充実が期待されます。	町内会々長や民生委員の会議の参加してもらえる関係性を築いていく。	地域の催し、自治会の催しに参加をして町内会々長や民生委員に顔見知りの関係になり、会議の説明・参加の依頼をお願いしていく。	12ヶ月
3	21	「散歩や買い物に利用者と出かける」という事業所目標の具体的取り組みを目指しています。短時間でも手伝ってくれる有償簿ボランティアなどを活用して外出支援を行えることが期待されます。	引き続き、散歩や買い物に入居者と共に出かけていく。	買い物については、個人の買い物に行く場合は本人と一緒に買い物に行く。散歩については、業務の見直しや効率化を進め、散歩に行く時間を確保していく。	12ヶ月
4					
5					